

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 可児工業高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和8年1月16日(金) 10:00～12:00
- 3 開催場所 可児工業高等学校 同窓会館
開催にあたり、委員による授業(課題研究発表会)参観を実施した
- 4 参加者 委 員 大杉 守平 中恵土自治連合会会長
佐橋 紀康 可児市立図書館長
岩田 美鈴 元本校PTA役員
山口 小百合 元本校PTA役員
各務 眞弓 可児市国際交流協会事務局長
日比野 光伸 本校同窓会役員

学 校 側 加藤 昌宏 校長
山田 巧 事務長
青山 知喜 教頭
熊崎 俊介 教務主任
林 貴康 生徒指導主事
水野 孝二 進路指導主事
宮田 忠夫 工業部長

5 会議の概要(協議事項)

(1) 授業(課題研究発表会)参観の感想

意見1:電気工学科、化学技術工学科、機械工学科の課題研究発表会を参観し、生徒、職員が色々と努力している姿が見られた。

意見2:課題研究では、生徒が企画・実行し、それを振り返って改善するなど、普通科高校ではなかなかできない取り組みがなされていて、大変よい。

意見3:発表する3年生はもちろん、発表を聞き、質問する下級生も真剣に取り組んでいた。今後も続けていくべき取り組みである。

意見4:生徒がやってみたいと思うことに取り組ませてもらえるのは、生徒にとっても大きな励みになる。コストや時間の問題もあり、最後まで完成できないグループもあったが、それもよい経験になっている。こういった取り組みを、ぜひ中学生にも伝えてほしい。

意見 5：発表に向けて、資料づくりなど時間をかけて準備したことが伝わってきた。生徒同士や職員とのコミュニケーションがうまく機能しており、失敗して分析し、改善を進めていくというよい流れの取組みであった。

(2) 本校に対する意見・提言

意見 1：地域で行われるワークショップに足を運んだり、Instagramで学校の様子を見させてもらうが、授業だけでは得られない教育の場が提供されていることが分かる。職員の働き方改革など難しい問題もあるが、今後もできる範囲で行えるとよい。

意見 2：ヒヤリハットメモで情報を共有する取組みは企業でも行われており、今後も積極的に推進していくべきであるが、どう共有するかが重要である。また、生徒にも「安全作業に対して学ぶ義務がある」ということを伝えてほしい。

意見 3：ヒヤリハットメモの書式が労務災害処理の書類のようになっており、メモを書くことに対するハードルが高い。まずは、「こんなヒヤッとしたことがあったよ」という内容を、生徒や職員で情報共有することが大切であり、書式はもう少しライトな感じでよいのではないか。

意見 4：中学校への出前講座について、今年度は希望がなかったことは残念だった。中学校への案内文書の内容が専門的すぎて分かりづらい。極力分かりやすいものにするとともに、映像やショートムービーのように「見える化」を考えてみてはどうか。

⇒中学校側が求めているものは何か、高校側の企画のどこに問題があるのかなど、中学校へのアンケートを実施しながら、来年度に向けて進めていきたい。

6 会議のまとめ

- ・委員の方々からは、「地域や地元企業の協力をもとにものづくりを学び、地域社会の活性化に貢献する」という工業高校のよさを活かした各種取組みについて、高く評価していただいた。
- ・ヒヤリハットメモを通して安全意識向上を目指す取組みは、多くの企業も取り入れており、学校での安全教育推進に役立つものと思われる。その一方で、ヒヤリハットの情報をオープンに共有するためには、メモの書式を工夫したり、よりよい情報共有の方法を模索する必要があるという指摘を受けた。これらのことについては、今後検討していきたい。
- ・中学校への出前講座について、残念ながら今年度は中学校からの希望が出ず、実施することができなかった。今後、中学校へのアンケートや実施計画の見直し、中学生の目線に立ったPR等を通して、ぜひ実施に繋げていきたい。